

## ニッセイ インターネットアンケート ～「夏のボーナス」について～

日本生命保険相互会社（社長：清水博）は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ (<https://www.nissay.co.jp>) 内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「夏のボーナス」に関するアンケートを実施いたしました。

### 《アンケート概要》

- 実施期間：2023年6月1日（木）～6月11日（日）
- 実施方法：インターネットアンケート（「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー）
- 回答者数：12,349名（男性：6,491名、女性：5,708名、その他・未回答：150名）

### ＜年代別回答者数＞

[名]

| 年代 |      |       |       |       |       |       | 合計    |
|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|    | ～20代 | 30代   | 40代   | 50代   | 60代   | 70代～  |       |
| 男性 | 282  | 629   | 1,006 | 2,103 | 1,635 | 836   | 6,491 |
| 女性 | 371  | 744   | 954   | 1,771 | 1,247 | 621   | 5,708 |
| 合計 | 653  | 1,373 | 1,960 | 3,874 | 2,882 | 1,457 |       |
| 占率 | 5.3% | 11.1% | 15.9% | 31.4% | 23.3% | 11.8% |       |

### 《アンケート結果のポイント》

#### ポイント① 質問 1～5

#### 【夏のボーナスについて】

- 平均支給額は約 58.6 万円と、昨年と比べて約 6 千円増加となった。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」方の割合は 18.9%と、前年と比べて 3.7%増加した。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」額が最も多い都道府県は「鹿児島県」、増え幅は 17.6 万円となった。
- ボーナスの使い道は全体の約 3 割が「貯蓄・資産形成」と回答し、子育て世代では「教育費の補てん」が 3 位にランクインした。

#### ポイント② 質問 6～7

#### 【世帯支出について】

- 昨年との世帯支出を比較すると、「増えた」と回答した方が、35.3%から 40.7%へ増加した。
- 増えた支出は「食費」、「光熱・水道費」と回答した方が多く、とりわけ子育て世帯では増加割合が大きかった。

#### ポイント③ 質問 8～12

#### 【夏季休暇について】

- 昨年の夏季休暇の過ごし方は「自宅・自宅周辺で過ごす」が半数以上の 54.5%であったが、今年は 47.8%と 6.7 ポイント減少した。
- 今年の夏季休暇の予定は「国内旅行（宿泊あり）」、「近場のレジャー（日帰り）」、「帰省」、「海外旅行」がいずれも昨年より増加した。
- 夏季休暇の平均予算は昨年よりも約 9 千円増加となった。

【夏のボーナスについて】

質問1～5について<無職、専業主婦（主夫）、自営業、公務員、パート・アルバイト、学生除き>で集計

質問1 ボーナスの支給額はいくらでしたか？（回答者数：4,364名）

質問2 支給額は昨年と比較して増えましたか？減りましたか？（回答者数：6,130名）

質問3 今回のボーナスに満足していますか？（回答者数：4,899名）

- ボーナスの平均支給額は約58.6万円と、昨年と比べて約6千円増加となった。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」方の割合は18.9%と、前年と比べて3.7%増加した。
- 支給額が昨年と比較して「増えた」額が最も多い都道府県は「鹿児島県」、増え幅は17.6万円となった。
- 今回のボーナスに半数近くは「満足していない」と回答した。

■ボーナスの平均支給額

| 2023年 (万円) |      |      |      | 2022年 (万円) |      |      |      |
|------------|------|------|------|------------|------|------|------|
|            |      | 男性   | 女性   |            |      | 男性   | 女性   |
| ～20代       | 32.7 | 38.9 | 27.2 | ～20代       | 33.6 | 39.8 | 27.8 |
| 30代        | 46.9 | 56.2 | 35.0 | 30代        | 44.9 | 55.3 | 30.8 |
| 40代        | 61.8 | 69.8 | 46.6 | 40代        | 58.1 | 67.8 | 39.3 |
| 50代        | 69.9 | 79.9 | 44.8 | 50代        | 74.9 | 87.6 | 42.3 |
| 60代        | 49.9 | 53.9 | 35.8 | 60代        | 50.2 | 54.9 | 32.0 |
| 70代～       | 46.3 | 44.2 | 50.0 | 70代～       | 45.3 | 45.4 | 45.0 |
| 平均         | 58.6 | 68.0 | 40.0 | 平均         | 58.0 | 61.6 | 35.5 |

昨年と比べて  
約6千円増加

■ボーナスの支給額は昨年と比較して増えたか

|       | 2023年 | 2022年 | 2021年 | 2020年 | 2019年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 増えた   | 18.9  | 15.2  | 12.7  | 7.5   | 13.4  |
| 減った   | 19.6  | 20.6  | 27.6  | 30.1  | 14.3  |
| 変わらない | 61.5  | 64.3  | 59.7  | 62.4  | 72.3  |

■昨年と比べて金額が増えた都道府県 (万円)

| 順位 | 都道府県名 | 増えた額 |
|----|-------|------|
| 1位 | 鹿児島県  | 17.6 |
| 2位 | 三重県   | 15.2 |
| 3位 | 滋賀県   | 12.6 |
| 4位 | 神奈川県  | 10.5 |
| 5位 | 東京都   | 10.4 |

※海外を除く  
※回答者が5名未満の都道府県は除く

コロナ禍の2020年から  
「増えた」と回答する方が増加し続けている

■今回のボーナスに満足しているか (%)

| 内容         | 占率   |
|------------|------|
| とても満足している  | 4.8  |
| まあまあ満足している | 19.9 |
| どちらとも言えない  | 32.3 |
| あまり満足していない | 17.0 |
| 全然満足していない  | 26.0 |

半数近くは「満足していない」と回答

質問 4 ボーナスを主に何に使いますか？ (回答者数：5,224名)

質問 5 ボーナス全額の何割を、貯蓄・資産形成に回しますか？ (回答者数：4,897名)

○ボーナスの使い道は全体の約3割が「貯蓄・資産形成」と回答し、子育て世代では「教育費の補てん」が3位にランクインした。  
 ○ボーナスを貯蓄・資産形成に「回さない」方は25.1%となり、昨年とほぼ同様の割合となった。

■ボーナスの使い道

| 全体 |                | (%)  |
|----|----------------|------|
| 順位 | 内容             | 占率   |
| 1位 | 貯蓄・資産形成        | 31.1 |
| 2位 | 生活費の補てん        | 16.1 |
| 3位 | 国内旅行 (宿泊あり)    | 9.7  |
| 4位 | 買い物 (自分の欲しいもの) | 6.4  |
| 5位 | ローンの返済         | 5.4  |

| 子育て世帯 |             | (%)  |
|-------|-------------|------|
| 順位    | 内容          | 占率   |
| 1位    | 貯蓄・資産形成     | 27.9 |
| 2位    | 生活費の補てん     | 19.7 |
| 3位    | 教育費の補てん     | 10.6 |
| 4位    | 国内旅行 (宿泊あり) | 9.9  |
| 5位    | ローンの返済      | 7.5  |

※扶養対象のお子様ありと回答した方を「子育て世帯」と表記

子育て世代では「教育費の補てん」が3位にランクインしている

■貯蓄・資産形成に回す割合

2023年 (％)

|          | 全体   | ～20代 | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代～ |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 回さない     | 25.1 | 20.9 | 17.5 | 19.0 | 22.0 | 43.6 | 70.7 |
| 1～2割未満   | 16.4 | 22.3 | 19.1 | 18.4 | 15.5 | 11.9 | 6.4  |
| 2～4割未満   | 13.8 | 22.6 | 17.2 | 14.3 | 12.9 | 9.3  | 2.9  |
| 4～6割未満   | 14.8 | 14.8 | 14.9 | 15.7 | 16.7 | 9.8  | 7.1  |
| 6～8割未満   | 10.8 | 8.4  | 12.5 | 11.6 | 11.9 | 6.9  | 5.0  |
| 8～10割未満  | 8.7  | 4.7  | 8.7  | 10.2 | 9.7  | 7.4  | 3.6  |
| 10割 (全額) | 10.4 | 6.1  | 10.1 | 10.8 | 11.3 | 11.1 | 4.3  |

2022年 (％)

|          | 全体   | ～20代 | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代～ |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 回さない     | 24.6 | 23.3 | 25.0 | 22.8 | 22.4 | 37.3 | 43.8 |
| 1～2割未満   | 16.0 | 15.7 | 17.5 | 16.2 | 17.2 | 9.4  | 0.0  |
| 2～4割未満   | 14.1 | 21.6 | 14.4 | 14.7 | 12.7 | 8.7  | 6.3  |
| 4～6割未満   | 15.0 | 14.8 | 13.9 | 15.1 | 16.0 | 13.0 | 25.0 |
| 6～8割未満   | 10.9 | 11.5 | 11.5 | 12.6 | 10.1 | 8.3  | 0.0  |
| 8～10割未満  | 10.5 | 8.2  | 8.2  | 10.9 | 11.5 | 12.7 | 12.5 |
| 10割 (全額) | 8.9  | 4.9  | 9.4  | 7.6  | 10.2 | 10.5 | 12.5 |

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト 矢嶋 康次のコメント>



2023年春闘の賃上げ率は30年ぶりの高水準となりました。このことが、ボーナスの平均支給額やボーナスが「増えた」方の割合の増加につながっています。今後も賃上げに後押しされる形で民間消費が堅調に推移することが見込まれます。中でも、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴う、外食、宿泊などの対面型サービス消費の回復などがより顕著になるのではないのでしょうか。

ボーナスの使い道では、子育て世帯における「教育費の補てん」のランクインが特徴的です。国立社会保障・人口問題研究所の調査では、理想の子ども数を持たない理由のトップは「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」となっています。岸田政権は、「次元の異なる少子化対策」を掲げていますが、費用面で改善がみられるかが、少子化対策がうまくいくかの一つのカギとなりそうです。

【世帯支出について】

質問6 昨年と比較して、ひと月当たりの世帯支出に増減はありましたか？（回答者数：12,349名）

質問7 どのような支出が増えましたか？（回答者数：12,349名）

○昨年との世帯支出を比較すると、「増えた」と回答した方が、35.3%から40.7%へ増加した。  
 ○増えた支出は「食費(28.9%)」、「光熱・水道費(26.5%)」と回答した方が多く、とりわけ子育て世帯では増加割合が大きかった。

■昨年と比較した世帯支出（ひと月当たり）の増減

| 2023年 |      | 2023年 (%) |      |      |      |      |      | 2022年 (%) | 2021年 (%) |
|-------|------|-----------|------|------|------|------|------|-----------|-----------|
|       |      | ～20代      | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代～ | 全体        | 全体        |
| 増えた   | 40.7 | 41.1      | 48.8 | 50.3 | 45.5 | 33.2 | 22.4 | 35.3      | 17.8      |
| 減った   | 7.1  | 5.6       | 6.0  | 6.1  | 7.7  | 7.7  | 6.9  | 11        | 16.2      |
| 変わらない | 52.2 | 53.3      | 45.2 | 43.6 | 46.8 | 59.2 | 70.7 | 53.7      | 66.1      |

昨年より世帯支出が「増えた」と回答した方が増加

■昨年と比べて増えた支出

| 全体 (%) |             |      |
|--------|-------------|------|
| 順位     | 内容          | 占率   |
| 1位     | 食費          | 28.9 |
| 2位     | 光熱・水道費      | 26.5 |
| 3位     | レジャー費       | 3.6  |
| 3位     | 日用品（備蓄品）購入費 | 3.6  |
| 5位     | お小遣い        | 2.2  |

| 子育て世帯 (%) |             |      |
|-----------|-------------|------|
| 順位        | 内容          | 占率   |
| 1位        | 食費          | 31.5 |
| 2位        | 光熱・水道費      | 29.0 |
| 3位        | 教養娯楽費       | 5.0  |
| 4位        | 日用品（備蓄品）購入費 | 4.2  |
| 5位        | レジャー費       | 2.7  |

※扶養対象のお子様ありと回答した方を「子育て世帯」と表記

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト 矢嶋 康次のコメント>

2022年度以降、物価は、日本銀行が「物価安定の目標」として定める前年比上昇率2%を上回る状況が続いています。2023年5月の消費者物価指数（総合）は前年同月比3.2%の上昇でした。今回の結果は、物価上昇を実感している方が多いことの表れと考えられます。

2022年より増えた支出としては、「食費」「光熱費・水道費」という回答が突出して多くなりました。これは消費者物価指数の統計とも整合的です。物価上昇は賃金上昇を上回るペースで進んでおり、消費者の負担感は増していると考えられます。

【夏季休暇の過ごし方】

- 質問 8 今年の夏季休暇は何をして過ごす予定ですか？（回答者数：12,349名）
- 質問 9 昨年の夏季休暇は何をして過ごしましたか？（回答者数：12,349名）
- 質問 10 今年の夏季休暇の予算は昨年と比べて増やしますか？減らしますか？（回答者数：12,349名）
- 質問 11 今年の夏季休暇の予算はいくらですか？（回答者数：12,349名）
- 質問 12 昨年の夏季休暇の予算はいくらでしたか？（回答者数：12,349名）

○昨年の夏季休暇の過ごし方は「自宅・自宅周辺で過ごす」が半数以上の 54.5%であったが、今年では 47.8%と 6.7 ポイント減少した。

○今年の夏季休暇の予定は「国内旅行（宿泊あり）」、「近場のレジャー（日帰り）」、「帰省」、「海外旅行」がいずれも昨年より増加した。

○夏季休暇の予算は昨年と比べて「減らす」方よりも「増やす」と回答した方の割合が上回った。

○夏季休暇の平均予算は昨年よりも約 9 千円増加となった。

■今年の夏季休暇は何をして過ごす予定か (%)

| 順位 | 内容           | 占率   |
|----|--------------|------|
| 1位 | 自宅・自宅周辺で過ごす  | 47.8 |
| 2位 | 国内旅行（宿泊あり）   | 16.5 |
| 3位 | 近場のレジャー（日帰り） | 9.7  |
| 3位 | 帰省           | 9.7  |
| 5位 | 海外旅行         | 2.8  |

■昨年の夏季休暇は何をして過ごしたか (%)

| 順位 | 内容           | 占率   |
|----|--------------|------|
| 1位 | 自宅・自宅周辺で過ごす  | 54.5 |
| 2位 | 国内旅行（宿泊あり）   | 14.3 |
| 3位 | 帰省           | 8.7  |
| 4位 | 近場のレジャー（日帰り） | 8.6  |
| 5位 | 海外旅行         | 1.4  |

■夏季休暇の予算は昨年と比べて増やすか (%)

|       | 全体   | ～20代 | 30代  | 40代  | 50代  | 60代  | 70代～ |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 増やす   | 12.5 | 14.4 | 15.1 | 15.3 | 12.0 | 11.7 | 8.6  |
| 減らす   | 9.7  | 12.6 | 12.3 | 11.1 | 9.2  | 8.3  | 8.3  |
| 変わらない | 77.8 | 73.0 | 72.7 | 73.6 | 78.8 | 80.0 | 83.1 |

■今年の夏季休暇の予算

|      |         |
|------|---------|
| 平均予算 | 56,000円 |
|------|---------|

■昨年の夏季休暇の予算

|      |         |
|------|---------|
| 平均予算 | 47,000円 |
|------|---------|

昨年に比べて約 9 千円増加

<ニッセイ基礎研究所 総合政策研究部 チーフエコノミスト やじま やすひで 矢嶋 康次のコメント>

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に見直されたことを契機に、日本でも経済正常化が進みつつあります。「国内旅行（宿泊あり）」などの回答割合が増えており、アンケートからも「リベンジ消費」が起きている様子が確認できます。この点が、夏季休暇の平均予算が昨年よりも9千円増加する、という回答結果につながったのではないのでしょうか。

しかし、総務省の家計調査（2023年4月）では、消費支出が前年同月比で4.4%減少し、家計の節約志向の強まりが明らかになりました。リベンジ消費が増加する一方で、それ以外の消費の見直しが起きています。今後の景気失速を回避するために、インフレ率の一層の大幅な上昇を政策的に抑えられるかが今後の注目ポイントとなります。

以上